

ご記入後4月末までにお送りください

COG2016最終公開審査対象フォローアップ（一年後）

| | |
|---------------|------------------------------------|
| アイデア名 | 近江八幡「世界の中心で学ぶ～子供たちの夏休み寺子屋教室」プロジェクト |
| チーム名 | 立命館大学＋近江八幡商工会議所 |
| 代表者 | 根津暁子 |
| 公開チームメンバー | |
| 自治体連携先（部署と氏名） | 近江八幡市総合政策部政策推進課 森津 豊・橘 直樹 |

東京大学公共政策大学院
PADITプログラム
COG事務局
2018年4月19日

COG2016ウェブサイト：<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2016/>

COG2016フォローアップ

目次

- 提案されたアイデアの状況
 - 現時点で実現されていること
 - 目標の実現に向けての状況
 - 自治体との連携の状況
 - その他
- 次頁以降のスライドの灰色の部分は削除して記入欄のスペースを広げてご記入ください。
 - できるだけ簡潔にそれぞれのパワポの枠に入るようにご記入ください。

1. 提案されたアイデアの状況（現状）

提案アイデア（目標） （当初アイデア）

夏休み期間中に、全国から集まった小学生を対象として、近江八幡市ゆかりのヴォーリスや近江商人、織田信長らの生き方・独立精神について学んでもらう。

また、当市の自然や歴史文化、地域交流などを体験してもらうための宿泊型のカリキュラムを提供する。

その後の変更点

「世界の中心で学ぶ サマースクール近江八幡」と題し、2泊3日の体験学習カリキュラムを設計。

旅行業者等への委託ではなく、地域の参画を得ることで、計画～実施まで自前で行うこととし、募集を行う寸前まで漕ぎ着けるも、旅館業法へ抵触する恐れがあることが発覚し、やむなく断念した。

2. 現時点で実現されていること

<実施状況（実現した内容）>

- 学校や行政、商工会議所、地域諸団体による実行委員会、及び実務担当者によるプロジェクトチームを組織し、実施に向けた協議を実施した。
- カリキュラム内容の策定、実施当日の役割分担等を整え、実施スケジュールや、募集チラシ案の作成等まで完了。

<実現しなかった理由>

宿泊を前提としたカリキュラムとし、参加者には教材費や食料費などの一部費用負担してもらうことを想定していたが、これが旅館業法に抵触する可能性があることが判明した。法律家等への確認を行うも、明確な判別は意見が分かれる内容であるとの回答であったことから、参加者（児童、保護者）や協力いただいた学校や地元団体等へ配慮し、残念ながら中止の判断に至った。

3. 目標の実現に向けての状況

今後のマイルストーン

● 実施体制の再検討

現行の法制度下においては、旅館業の許可を有する旅行代理店等に介在してもらうことが唯一の解決法と思われる。

しかしながら、地域の協力による手作りカリキュラムであるが故に、参加費用を抑え、持続可能な青少年育成プログラムとできる側面もあることから、慎重な判断が必要となる。

課題

・ 体制

同左

・ 資金

旅行代理店等への委託とした場合、そのコスト増を参加費用へ転化しないアイデアが必要となる。

・ その他

4. 自治体との連携の状況

- 「世界の中心で学ぶ」実行委員会顧問に市長が就任。
- COG応募前より、面談を重ね、アイデアの方向性を共に検討した。
- COG応募後は、上記実行委員会、及び実務担当者で構成するプロジェクトチームに参加してもらい、実施までの詳細協議を行った。
- 最終的にプロジェクト実施には至らなかったが、サマースクール実施の際には、参加者募集のために市内小学校へのチラシ配布や友好都市への案内等の広報活動、保健師派遣による児童の健康面サポート、移動手段の確保等で、自治体の協力を得る予定であった。

5. その他

今回立ち上げたプロジェクトは、世の中に明確な中心や周辺はなく、今生きている自分が中心なのだという、ヴォーリズ®の精神や行き方を子供たちに学んでもらおうとするものであり、目まぐるしいスピードで変化する世界を生きる、今の青少年たちにとって、自然の大切さを認識するなど、意義深いものになっていると思っている。

前述の課題はあるものの、今後も実現に向けた議論を継続していきたい。